

福井県から発信する「井ぶりプラごみ」 ゼロプロジェクト（CFB・海と日本2022） 福井県プロジェクト実行委員会

＜若い世代のアイデアを取り入れ海洋ごみ問題の解決を！＞

今年度は海洋ごみ問題への関心が薄い若年層へ普及や嶺南のみの活動を嶺北に広げ県内に幅広く海洋ごみ問題を訴求すべく活動を行った。鯖江市役所JK課と密に連携し、商品開発では廃棄されるカニ殻を使用したパウダー作りからパッケージデザインまで鯖江市役所JK課と進め、福井県フェスではプレゼンも実施。商品は越前海鮮倶楽部の店舗を通して全国へ販売した。オリジナルごみ拾いでは、JKのアイデアを駆使した新しいごみ拾い「ビンごみ」が誕生。大人から子供まで楽しみながら参加できるユニークなごみ拾いイベントとなった。JKが実際に試食会や販売・主体的なごみ拾いイベントをすることで幅広い世代が近寄りやすい・参加しやすくなり、年間を通して連携したことで今まで以上に若年層へ海洋ごみ問題の訴求をすることができたと感じている。他にも今まで嶺南でのみ開催していた組成調査や出前授業を嶺北まで広げ開催したことや、海と山の小学校をつなげる体験授業を実施し、福井県内に海洋ごみ問題訴求を行うことができた。

2022年度 実施状況について

■鯖江市JK課タイアップ！人気カニせんべい缶リニューアル 新缶詰作り&販売
＜課題・背景＞
カニは底引き網で漁が行われごみの影響を受けやすい。また、今まで捨てられていたカニ殻の再利用を行いカニから海洋ごみ問題について訴求する

■福井県版スポーツごみ拾い
＜課題・背景＞
若い世代の海洋ごみ問題への関心が低い。

■「福井県フェス」へ食べられる器ご提供～
＜課題・背景＞
プラスチックフリー食イベントとしてバガスや紙の器で提供していたが、なるべくごみを出さないように出来ないかと。

■嶺北では初調査！地元の子供たちや大学生と海洋ごみ組成調査を開催！
＜課題・背景＞
福井県主催で毎年1回嶺南地方でのみ行われていた調査を、嶺北でも実施しようという試み。



・概要：JK課がデザインや中身のリニューアルに参加し、人気カニせんべい缶の更なるパワーアップを図る。
・目的：JK課と連携し、若年層への訴求を目指す。全国販売することで福井から全国へ発信する。
・場所：福井県フェスinサンドーム会場・JR池袋駅店・東京ソラマチ店・阪神百貨店梅田店
・連携先：越前海鮮倶楽部・鯖江市役所JK課
・効果：試食会を行い来場者の生の声を確認したところデザイン投票には200人が参加、実際にJKがプレゼン・試食会を行うことで、近寄りやすい雰囲気になった。

・概要：県内3カ所で鯖江市役所JK課とタイアップして楽しさと競技性を高めたごみ拾いを実施。
・目的：JKのアイデアを駆使してコスプレやユニークな若い世代も参加しやすい競技性を高めたごみ拾いにして幅広い世代を巻き込む。
・場所：鯖江市西山公園周辺・日野川緑地・三国サンセットビーチ
・連携先：鯖江市役所JK課
・効果：初めての取り組みとなるビンゴゲームとごみ拾いを組み合わせたJK課版「ビンごみ」を企画。大人から子供まで楽しみながらごみ拾いができた。「ビンごみ」のニュースをみて、上中中学校2年生の探究授業でオリジナルごみ拾いをしたいと連絡があり、活動が各所で関心を得ているとわかる。

・概要：究極のプラスチックフリーを目指し「食べられる器」での提供を行った。5月の福井県フェスでアンケートを実施し、10月の福井県フェスではブラッシュアップした「食べられる丼」で提供した。ほかにも鯖江市役所JK課とタイアップしたりリニューアル人気カニせんべい缶の中身・デザイン・プレゼンをステージで実施した。
・目的：究極のプラスチックフリーイベントを実施し、来場者に海洋ごみ問題を訴求する。
・場所：福井県産業会館・サンドーム福井
・連携先：福井県参加店舗・折兼・三菱食品・鯖江市JK課・越前海鮮倶楽部ほか
・効果：食べられる器での提供はなかなかないため、多くの来場者の関心を感じた。

・概要：ごみ拾いは地元の浜住町子供会の協力で実施し、分別・組成調査を福井県立大学海洋生物資源学部先端増殖科学科の学生協力のもと実施
・目的：ごみ減量の施策となるデータをとり、今後の海洋ごみ削減につなげていく。
・場所：鷹巣海水浴場北部
・連携先：福井県安全環境部循環社会推進課・浜住町子供会・福井県立大学 海洋生物資源学部 先端増殖科学科
・効果：参加した大学生は魚の増養殖に加え、海洋美化も研究テーマとしており、「プラごみの細かさを見ると、長く海を漂っていたことが分かる。海の生態系にも関わるごみをどう減らせるか考えを深めたい。」と意欲を見せる学生も。

その他：モデル汎用・小型企画の海洋ごみ出前授業・学習会や
小型 店舗ステッカー施策の鯖江市JK課とコラボ海洋ごみステッカー制作を実施

メディア露出



11/6 福井テレビ
海と日本プロジェクト特別番組
「おっきな海とちっぽけな人間」

5/29 NHKニュース
「福井県フェスin産業会館開催」

7/22 福井新聞
「海洋ごみ出前授業」

10/24 日刊県民福井
「福井県フェスinサンドーム福井開催 JK課オリジナルカニ缶先行販売」

その他：TV30本 WEB140本 新聞9紙 掲載

2022年度の課題とこれからの展望

県民へのごみ拾い活動は浸透してきているが、観光客や釣り人への周知徹底が必要であり、実際に海洋ごみの5割が漁具であることがわかっている。削減並びに漁具の再利用を進め、海洋ごみ問題について訴求することが必要。今年度、鯖江市役所JK課と連携を進めてきて若者が海洋ごみの現状を学ぶ機会が少ないことが分かった。来年度も引き続き次世代を担う若者に訴求を広めるため、若者が多く集まるイベントや鯖江市役所JK課とのコラボによるオリジナルごみ拾いで若年層へ海洋ごみ問題を訴求していきたい。